

南部・東部地域振興対策特別委員会記録

開催日時 平成26年11月27日(木) 10:05~10:47

開催場所 第1委員会室

出席委員 9名

新谷 絃一 委員長

松尾 勇臣 副委員長

尾崎 充典 委員

太田 敦 委員

田中 惟允 委員

岡 史朗 委員

国中 憲治 委員

秋本登志嗣 委員

川口 正志 委員

欠席委員 なし

出席理事者 辻本 南部東部振興監

福谷 農林部長

加藤 県土マネジメント部長 ほか、関係職員

傍聴者 なし

議 事

(1) 12月定例県議会提出予定議案について

(2) その他

<質疑応答>

○新谷委員長 それでは、今の説明、報告、その他の事項も含めまして質疑があれば発言
願いたいと思います。

○太田委員 先ほど、辻本南部東部振興監から触れていただきましたけれども、紀伊半島
大水害復旧・復興計画は、平成26年度までが集中期間ということで来年度から中長期と
いうことになります。先ほどのお話では、南部・東部地域のそれぞれの計画と復旧・復興
計画の統合に触れられておられましたけれども、その点について、もう少し詳しく、どの
ようにお考えなのかお伺いしたいと思います。

○村上南部東部振興課長 お答えさせていただきます。平成26年度で復旧・復興期間と

いう集中期間が終わります。先ほどの報告事項にもありましたように、復旧工事が順調に進みまして、避難されておられる方々が自宅へ帰る目途がほぼついてきました。これからは新たな地域振興というステージに変わっていくものと思っています。

この復旧・復興計画と、5年目を迎えます南部振興計画、東部振興計画を統合いたしまして、新たな南部振興計画、東部振興計画を策定する作業をしているところでございます。新たな計画では、頻繁に訪れてもらえる地域になる「交流」と、それから住み続けられる地域になる「定住」の促進の2つを目指す姿としております。

県内の方々でも南部・東部地域へ行ったことがない方がいらっしゃるようでございます。「交流」では、地域を知ってもらい、訪れてもらうための情報発信やプロモーション、観光資源づくり、イベントの開催などに取り組みたいと思っております。それから、「定住」では、地域で生活していくための仕事づくりや生活基盤の整備、あるいは防災対策で安心して暮らしていただけるように、さらに、地域に移り住んでもらう移住対策などについても取り組みたいと考えております。地域を知ってもらって、訪れてもらって、移住・定住につなげていけるような流れをつくりたいと思っております。具体的にプロジェクトを提示しまして、地元の市町村や地域の方々とも協力して事業を進めてまいりたいと考えております。以上です。

○太田委員 ご説明いただきまして、ありがとうございます。

ことしの紀伊半島大水害復旧・復興シンポジウムを見せていただきまして、里山資本主義というご提案がありました。また、パネルディスカッションで十津川村、天川村、下北山村、川上村など、それぞれのところで新たな地域おこしの取り組みが進められているというお話を聞かせていただきました。こういう取り組みをさらに前に進めていただきたいと考えております。

紀伊半島大水害復旧・復興の現状と取組の報告にもありますけれども、十津川村の谷瀬のプロジェクトも、今まではつり橋だけを見ていた方にさらにその周辺を周遊していただけるような取り組みを地元の方も一生懸命されているということです。新たな中長期計画で、先ほどもお話がありましたけれども、これまで奈良県内に住みながら訪れておられない方がいる。訪れる方がさらにふえるような計画を私たちも提案していきたいですし、そういう計画ができることを願っておりますので、よろしく申し上げます。以上です。

○岡委員 先ほど、繰越明許費の補正の説明で、道路橋りょう整備事業の欄のところ、高取バイパスに関連するトンネルのことだったかと思っておりますけれども、何かがあって繰り

越し、要するに繰り延べになったというご説明があったと思いますが、もう一度、詳しく教えていただけますか。資料「12月定例県議会提出予定議案の概要」10ページの、繰越明許費の件です。

○森本道路建設課長 道路橋りょう整備費の繰越明許費のご質問でございました。場所は、下市町から黒滝村、天川村に向かう国道309号丹生バイパスの途中の丹生トンネルでございませう。トンネルの発注をしておりましたけれども、坑口部分の住民の方から環境問題等、その調整に手間取りまして着工がおくれたため、繰り越しさせていただくということでございませう。以上でございませう。

○岡委員 聞き間違えたと思ひますので、それは結構でございませう。

高取バイパスの進捗状況に関連して、気になっていまして、教えていただけますか。トンネル工事もたしかあったように思ひますが。

○森本道路建設課長 高取バイパスでございませう。高取町兵庫から清水谷の区間、3.4キロメートルの整備を今やっております、そのうち、北側の1.4キロメートル区間については平成24年4月に既に供用しております。残る区間を進めておりますが、中央部分に630メートルの清水谷トンネルを計画しております。その清水谷トンネルから北側については、用地買収は全て終わっております。それから、南側の清水谷地区について、現在、用地買収を進めておりまして、用地買収の進捗としましては、工区全体としては76%、それが清水谷地区では約20%の進捗となっております。鋭意、用地の買収を重点的に進めまして、早期にそのトンネル工事に着手できるように進めているところでございませう。以上でございませう。

○岡委員 高取バイパスについても地元では非常に期待感が大きいわけでありまして、これは高取町だけではなくて、中南和地域の動脈になると思ひます。そういう意味においても早く、着実に進めてもらいたいと思ひます。

過日、ご存じのとおり国土交通大臣が奈良県入りをされまして、残念ながら十津川方面は入らなかったのですが、近隣をずっと車で回られました。その後、私も国土交通省にお礼かたがた行ったときにおっしゃったことから、奈良県は道路の整備がおくれているという印象を持って帰られたようでございませう。だから、しっかりと国の力も引っ張り込みながら、命の道でもございませうし、またこれからの観光産業振興のためにも奈良県は道路行政が大変大事だと思ひますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。以上でございませう。

○川口委員 岡委員が尋ねられたので、私も関心を起こしたわけです。今、高取バイパスの関係で、最終的には京奈和自動車道の御所インターチェンジへ結ぶということですが、いつごろできるのか、見通しを一度聞いておきたい。

もう一つは、うたい文句になっているのではないかと思っているが、「災害に強く希望の持てる紀伊半島アンカールート」という言葉は好きだけれども、これは近隣府県との連携があり、国土交通省とのかかわり合いがある。どういう絵を描いて、どういう形でこれを組み立てているのか。ここからここまではこういう形で着工するとか、3県でそれぞれの地域、奈良県は奈良県、三重県は三重県、和歌山県は和歌山県、大阪府も関係すると思うけれど、その関係プレーがきちんと組み合わされているのかどうか。加藤県土マネジメント部長は国土交通省とどういうふうに接触していかれるのか。文字はよく見るわけです。皆さんも暗記するほどに覚えていて、私も暗記するほどに覚えていますが、一向にわからない。私は、選挙運動でしきりにアンカールートと言っています。アンカールートとは、絵に描いたらこうですと言っていますが、もうちょっと具体的に、楽しくなるような話題を聞かせてください。

○加藤県土マネジメント部長 それではまず、紀伊半島アンカールートについてご説明をさせていただきますと思います。

紀伊半島アンカールートにつきましては、京奈和自動車道と太平洋沿岸の紀勢線と、この間を一般国道168号という地域高規格道路と一般国道169号で結んで、いかりのような形で緊急時のネットワークを構築していこうという構想でございます。

それぞれ構成する道路がございます。一つは京奈和自動車道でございますけれども、京奈和自動車道につきましては奈良県と和歌山県が関係してまいりますし、紀勢線につきましては和歌山県と三重県が関係してまいります。また、一般国道168号につきましては、基本的には奈良県がかかわってくるということでございますけれども、それぞれの県でも関係する道路の整備促進について国土交通省にもお願いしながら、あるいはその事業のお手伝いをしながら推進をしているところでございますし、また、3県の知事会議もございまして、そういった中でも認識を一緒にして取り組んでいるところでございます。

いつの時点で完成してくるのかということにつきましては、個々の事業でそれぞれ供用目標が国から公表されているところもございまして、まだ、事業着手に至っていない区間もございまして、しっかりした形で何年にでき上がるのかが全ての区間で必ずしもはっきりしているわけではございませんけれども、3県が力を合わせて、国にしっかりと働き

かけながら事業を推進しまして、ネットワークを形成していきたいと考えています。

○森本道路建設課長 川口委員から、高取バイパスから京奈和自動車道への連絡の話がございました。委員がお述べのとおり、高取バイパスから、現在、京奈和自動車道の御所インターチェンジへつなぐ道路について検討は進めております。検討につきましては、現道を利用する案、あるいはバイパスを使う案といろいろ検討しており、早期に計画決定して、事業化を進めていきたいと思っております。いつできるかというのは今のところまだお示しできない状態でございます。

○川口委員 その程度なら、今までずっと聞いてきました。いずれにしろ、これはいつごろつくのか。3年先とか5年先とか、そういうことを聞くわけです。あの地図を見れば、私の家の上に計画が書いてあるわけです。私も立ち退きの段取りもぼつぼつしなければならぬと思っています。

冗談ではなく真剣に、いつごろと示さなければならない。ただ百年の計と言ったのでは、100年先のことを夢に見ていればいいのかということになりかねない。理屈で言い合いするのではないです。このルートは大体いつごろまでにやる、このルートはどうなる、隣接県との接点はどうなるというかみ合わせの話し合いはしていると思う。具体的な計画について担当窓口同士の話し合い、あるいは国土交通省が認可しようという形も含めて、アクションはやっていると思うけれども、プランを具体的に示さなければならない。いつごろまでにどの程度の構想、計画をまとめるのか、単なるスローガンでは困るという意味で私は言っているわけです。

○加藤県土マネジメント部長 ご指摘のとおり、紀伊半島アンカールートにつきましては、三県知事会議だけでなく国土交通省地方整備局も含めまして、和歌山県、三重県、奈良県の部長レベルでも会合を持って打ち合わせをしているところでございますけれども、将来の公共事業費やいつの時点でどれだけ予算を投入できるのか、あるいは国の動きがどうなるのかというような不確定要素もございますので、いつごろまでにどこの区間を仕上げ、いつごろまでに次のどの区間を仕上げるといった絵をまだお見せするような状況にはないわけですが、全体の事業がしっかり進むように取り組んでまいりたいと思っておりますので、よろしく願いをいたします。

○新谷委員長 目標の年度は、示されませんでした。できるだけ具体化してもらって、奈良県の道路整備は国道、県道、市町村道に至るまで全国レベルでもワーストクラスであると認められているわけですから、頑張ってください。

ほかの委員の皆様方、ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

それでは、質疑につきましてはこれで終わらせていただきたいと思います。ご苦勞様でした。

委員の方、お残りいただきたいと思います。理事者の皆さん、ご苦勞様でした。

(理事者退席)

○新谷委員長 それでは、委員間討議を行いたいと思います。

まず、平成27年2月定例会において調査を終了し、その成果を報告するわけですが、お手元に調査報告書の骨子案を配付しておりますので、お目通しをいただきまして、構成や成果の取りまとめに、あるいは提言等について意見がございましたらお出しいただきたいと思いますので、よろしくお願いを申し上げます。

○川口委員 本日の委員会で出された三人の委員からの意見も入れておいてください。

○新谷委員長 意見を一文入れておいたらよろしいですね。

委員間討議もこれで終わらせていただきたいと思います。いろいろなことも含め南部・東部地域振興対策特別委員会に対することはありませんか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

ありがとうございました。閉会といたします。